第一章 美術館小史「美術館とコレクション」(第一、二室)

した。(画像のキャプションに付したNiは作品リストと一致する。以降同じ) とした山口コレクション、田万コレクション、小野コレクション、辻本コレク ルコレクション、師古斎コレクション等を、第二室に彫刻や陶磁器などを中心 部コレクション、住友コレクション、小西家伝来・尾形光琳関係資料、カザー や沿革を概説したパネルなどをあわせて設置して鑑賞の導入とした。引き続い を象徴的に展示した。また建設期の図面や過去の展覧会資料、開館当初の写真 した。第一室の冒頭にケースを特設し、収蔵品第一号である橋本関雪「唐犬」 て、美術館のコレクションの形成と概要について、書画や工芸を中心とした阿 第一章は、二室にわたって美術館の歴史とコレクションを紹介する内容と 田原コレクション等を、それぞれ代表的な作例とパネルによって紹介





上:第一室展示全景 下: 第二室展示全景



カザールコレクション(No.11-20)



石造 仏像頭部 (No.25-27)



冒頭を飾る橋本関雪「唐犬」(No.1)



コレクション紹介パネル

第二章 美術鑑賞入門

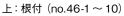
「かたちをたのしむ8・0・壺」(第三、四室)



上: 第三室展示全景 下: 第四室展示全景







右上:「故事人物蒔絵堤重」(no.32) 右下: エトルリアの壺 (no.46-1 ~ 10)



第三章 日本美術①「桃山人 ――肖像画レクイエム」(第五室)

彫刻・工芸作品をあわせて展観した。当時の肖像画は主に追善供養のための遺像として制 成した。日本美術①では、 中心に三室、また中国憧憬をテーマに江戸から明治期の煎茶文化に焦点を当てて一室を構 ドを意識した当館初期の収集戦略もうかがえる内容となった。 示の出陳作には、開館の昭和十一年に受入れた寄託作品が含まれており、太閤秀吉ブラン 作されたことから、羅漢図や木造祖師像などの仏教美術も展示に組み込んだ。また、本展 第三章は、日本美術の展示として、当館コレクションの特色の一つである中近世絵画を 桃山から江戸初期の武家肖像画を中心として、同時代の屛風や







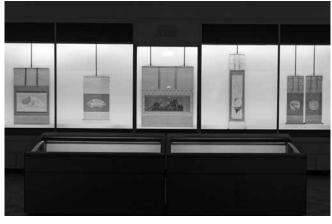


上から :展示室全景 :展示風景 :「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」(no.76)

: 肖像画 (no.60-64)

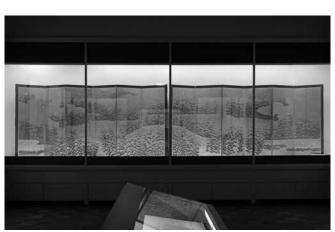
第三章 日本美術②「洗練華麗の極み」(第六室)

第一級の資料として知られている。これらの資料とともに、光琳の「燕子花図」をはじめ 服商・雁金屋の衣装図案帳や関係文書など、その私生活や趣味をもうかがうことができる る小西家に伝えられたもので、光琳による画稿や工芸図案だけでなく、生家である高級呉 とする琳派の華やかな草花図もあわせて紹介した。 資料」を中心に、琳派の作品を展観した。この資料は、光琳の息子・寿市郎の養子先であ 日本美術②では、当館の主要なコレクションの一つである「小西家伝来・尾形光琳関係









- 上から : 展示風景 : 展示室全景 : 尾形光琳 「梅蒔絵箱図案」(no.84) : 「藤袴図屛風」(no.79)

第三章 日本美術③「爛熟の江戸文化」(第七室)

当館所蔵の葛飾北斎「潮干狩図」(重要文化財)は、平成二十六年の修理後、本展示おいて 伊藤若冲、江戸の谷文晁や葛飾北斎、また大坂の岡田米山人や森狙仙といった当代一流の 絵師たちの作品をとりあげ、個性豊かに華やぐ江戸絵画の爛熟期を魅せる内容とした。なお、 初披露となった。 日本美術③では、館蔵・寄託品によって江戸時代後期の絵画を展観した。京の池大雅や









- 上から : 展示風景 : 展示風景 (no.106-108)
- : 葛飾北斎 「潮干狩図」 (no.103)
- : 伊藤若冲 「蔬菜図押絵貼屏風」(no.79)